

第70回（令和4年10月）文章入力スピード認定試験（日本語）問題

わたし	が小学生だったころに週末の楽しみにしていたのは、年の離れた姉に連れていっ	40
もら	う映画館でした。それは月に2回と決められており、とても待ち遠しかったことを	80
今でも	覚えています。テレビとはまた違い、暗い所に入って大きなスクリーンを前にし、	120
その世界	に入り込んでいく感覚が何とも気持ち良く、特別な時間だったのです。そして	160
何本も	見た中で、最も印象に残ったのは1980年代のイタリアを舞台としたもので、映	200
写機の技師	とそれを手伝う子供が心を通わせていく物語でした。とても人気のあった作品	240
で、現代	でもファンが多いといいます。それから幾度となく見ていますが、当時の記憶と	280
混ざり	合い、色あせることはありません。	300
ところで、	19世紀末のフランスには、後に「映画の父」と呼ばれる兄弟がいたことを	340
知っていますか。	それは、彼らの父がアメリカの発明王が考案した映像機器に感動して、	380
息子たち	に動画の研究を勧めたことがきっかけでした。そして、それに改良を加え、1台	420
で撮影	と映写、現像を行うことができる装置を開発しました。これは、スクリーンに映し	460
出す	出しができるため、一度に多くの人が観賞できるようになったのです。まさに今わた	500
したちが	が見ている映画の原型とされています。初めての作品は約50秒のものだったそ	540
で、そこ	に登場したのは、自身が経営する工場から出てくる従業員たちの姿だったとい	580
に登場	ます。他にも、妻と子供や駅に到着する列車など、日常生活のさまざまな場面を作品と	620
して残	しています。列車の映像を上映した際には、カメラに向かって走ってくるのを見て、	660
て残	観客が目の前の出来事だとすっかり勘違いをしてしまい、大騒ぎになったといいます。怖	700
くな	くなって会場を飛び出したり、逃げたりした人もいたようで、当時の人々にとって、それ	740
がいか	がいかに驚くべき装置であったかが想像できます。彼らは、撮影をする機械を作っただけ	780
ではなく	ではなく、その構図や演出などの原型をも生み出したという意味で、まさに映画を発明し	820
たとい	たといえるでしょう。	831
そして	これは偶然なのですが、驚くことにこの兄弟の名前は、フランス語で光を意味し	871
ている	ています。このことを聞くと、彼らはまさに映画を作るために生まれてきたのではないかと思	911
えてなり	ません。さらにカメラマンを育成して、海外に派遣する活動なども行っていたとい	951
ました。	ました。研究所なども建てられており、数多くの功績を世に残しました。	990
この装置	は非常に画期的なものであり、早くから日本に伝来していたのは驚くべき事実	1,030
で	でしょう。当時フランスに留学していたある男性が、この兄弟と親交があり、試写会でこ	1,070
れを見	れを見た際、衝撃を受けてすぐに輸入したとされています。初期のものは、活動写真と呼	1,110
た際、衝	ばれ、ストーリーを説明する話し手がいました。独特の言い回しで、観客を魅了したとい	1,150
た	ります。山場となるシーンでは口調が激しくなるので、見ている人は自然と気持ちが高ぶ	1,190
るの	るのです。このような見せ方は、日本でのみ定着したスタイルだったといいますが、その	1,230
理由	理由は定かではありません。	1,244
現代は、	現代は、テレビだけでなくパソコンやスマートフォンなど、いろいろな端末で映像を見	1,284
ることができる	ることができますため、わたしのように映画館に特別な思い入れがある人は、あまりいない	1,324
かも	かもしれません。しかし、大きなスクリーンと最新の音響システムで見ると、迫力が全く	1,364

違うので、時には足を運んでみるのもよいのではないか。どうか。	1, 395
わたしは洋風の建物に何となく憧れの気持ちを持つようになったのは、港周辺に立ち並ぶ光景を目にしてからでした。これらは、幕末から明治にかけて、横浜や神戸などに誕生しました。そして、幕府が外国と結んだ条約により全国5か所の港が開かれ、幾つかの地に居留地が設定されます。こうして開国が決まってからは、ヨーロッパやアメリカなどからの来訪者のための住宅地として、どんどん発展していったのです。当時は畠にふすまや障子といった伝統的な家屋がほとんどだったため、出身地となるべく似た環境で生活したいと希望する人々のために、試行錯誤を繰り返して建てられたといいます。	1, 435
設計こそ外国の専門家が担っていましたが、実際の施工現場では、わが国の職人が活躍したといわれています。それまでに手掛けたことのない仕事だったため、当初はためらうことが多く、随分苦労をしたのだそうです。ところが、最初こそまねをすることで技術を習得していきましたが、器用な職人たちにはこつをつかむと、古来の技術を駆使し、日本の材料を代用して、創意工夫を重ねながら完成させていったのだそうです。神社仏閣を手掛けていた人々による完成度の高いきめ細やかな仕上がりは、彼らの誇りを示したものだったのでしょう。港町の洋風建築群は、ヨーロッパの歴史ある町並みを想像させるだけではなく、日本の職人の素晴らしい技術の見本にもなっていったのです。そして近年では、それはもはやただの模倣ではなく、新たな建築様式を編み出したと捉える専門家もいるといいます。	1, 475
さて、ここからは日本各地にある洋風の建築物を紹介していきましょう。最も多く残されているのは、神戸市の丘に広がる町並みでしょう。港を見下ろす高台に明治から大正にかけて、洋風住宅が多く建てられました。このエリアは、文化財保護法に基づいて国的重要伝統的建造物群保存地区に指定されています。洋風と和風の建築物がそれぞれ51棟と14棟あり、その対象となっているのです。その中でも、シンボルのような存在として知られているのは旧トマス住宅でしょう。ドイツ人貿易商の自宅で、れんがの外壁に、とがった屋根の上の鳥の姿がとても印象的で、国の重要文化財にも指定されています。そして、長崎には、全国的に有名な旧グラバー住宅があります。神戸市の例と同様にやはり小高い所に位置しており、海が見えるという点が共通しています。この他に鹿児島にも幾つかの建物が残されているそうです。	1, 515
首都圏でよく知られているのは、やはり横浜でしょう。残念ながら、現存しているのは別の場所から移築し復元されたものがほとんどです。中でも有名なのは、外交官の家と呼ばれる建物でしょう。明治政府の外交官を務めた人物の住まいで、こちらも当初は別の場所にありました。塔屋付き2階建ての特徴的な意匠や白と茶の華やかな外観、高級感あふれる内観などから、いかに当時の美術工芸のレベルが高かったかを感じ取ることができます。いずれの西洋館も町の中心地から近く、バスや徒歩などで行くことができるので、ぜひ訪れてみたいものです。	1, 555
	1, 595
	1, 635
	1, 670
	1, 710
	1, 750
	1, 790
	1, 830
	1, 870
	1, 910
	1, 950
	1, 990
	2, 030
	2, 035
	2, 075
	2, 115
	2, 155
	2, 195
	2, 235
	2, 275
	2, 315
	2, 355
	2, 395
	2, 413
	2, 453
	2, 493
	2, 533
	2, 573
	2, 613
	2, 653
	2, 665